

### 【ストレングスを生かした支援②】

では、「仮面ライダーが好き」というストレンクス（強み）がわかった時、提供できる支援にはどんなものがあるでしょうか？

時に、この方をAさんとしましょう。Aさんには、最重度の知的障がいがあり、ADLの多くは全面介助です。もちろんコミュニケーションに用いることができるような発語はあません。支援職員には、なかなか係る術がありません。

さて、そんなときに見つかった「仮面ライダーが好き」のストレンクス、もちろんAさんに、「何をして欲しいの？」と問うてみても、今のAさんと支援職員との関係では、その意思を聞き出すことはできないでしょう。

支援職員は、考えます。自分が子どもの頃、「仮面ライダーが好き」だったら、何をしていたらどうか？と。そしてさらに想像を広げることが必要です。自分の子どもが「仮面ライダーが好き」だったらいったい何を一緒にしたいと思うだろうか？と。まだまだ、想像の翼は広がります。テレビの中、映画の中、漫画の中、「仮面ライダーが好き」だった時に、一体どんな場面があったのだろうか？と。

では、簡単なところから上げていきましょうか…。想像を翼を広げる時に大切なことは、自ら思考停止状態を作らないことです。支援内容について、「お小遣いがない」とか「人手がない」とか「上司の許可が出ない」、「家族の協力が得られない」などの阻害要因を一緒に思い浮かべさせてしまうと、人間の脳みそはいとも簡単に思考停止に陥り、それ以上深く考えることを止めてしまいます。

では、行きますよ。「仮面ライダーの絵本を買う」「仮面ライダーのDVDをレンタルして見る」「仮面ライダーのフィギュアを買う」、次々に行きますよ…「仮面ライダーのポスターを貼る」「仮面ライダーのタオル、バスタオル、ハンカチを買う」「仮面ライダーのトレーナーを着る」「仮面ライダーの靴下を履く」、ちょっと時間も手間もかかりますが、「仮面ライダーのショーを近くの大型スーパーまで見に行

く」「仮面ライダーの映画を5月の連休に見に行く」、「仮面ライダーごっこをする」「仮面ライダーのコスプレを着る」、事業所の文化祭などで仮面ライダーショーを支援職員と演じる、「仮面ライダーの歌を歌いにカラオケに行く」…。

次には、「仮面ライダー」からの連想で、支援を組み立ててみましょう。仮面ライダー→強い、正義の味方、悪者をやっつける、仲間がいる、兄弟がいる、助け合っている、疑似家族？…。

Aさんには、身寄りがありません。父親、母親を早く亡くして、しかも生前も心温まるような交流が、親子の間で、無かったようです。現在も、兄弟は実家付近にお住まいのようですが、音信不通です。

Aさんが「仮面ライダーが好き」なのには、どうも成育歴と現在の家族関係の影響がありそうです。

ストレングスを活かした支援が提供されたとき、本人は、自分の味方がここにいると支援職員のことを感じます。自分の好きなことを支援職員が知っていてくれることを感じることは、肯定的な人間関係の作る基盤をなります。それが、これから始まる人格変容の第一ステップなのです。

このストレングスを活かした支援は、何歳になってからも始めることができます。それを「あきらめない支援」と定義づけることもできます。障がい度が極めて重かったり、強度の行動障がいがある方などには、ストレングスを活かした支援が提供されていないことが多いのですが、一たびこの視点に気が付けば、次に続く行動変容を生じさせることができるのです。

Aさんで言えば、仮面ライダーの服を着ることが、肯定的な自己像を育み、コミュニケーションの応答性を高め、Aさんからの支援職員への係わりが増えていくでしょう。その中で支援職員からの係わりや問いかけに対して、わかりやすい返事が返るようになるのです。「気がいたら始める」それが「あきらめない支援」となります。